

戦争の記憶を伝える

終戦から76年。戦争の時代を生きた人々の声を聴く機会は、徐々に失われつつあります。戦争の悲惨さや平和の尊さを見つめ直す機会として、戦時中を経験した方に話を伺いました。

(※インタビュー内容をそのまま掲載しています)



おちあい かつお
落合 勝雄さん(白銀町)
大正14年生まれ・96歳(終戦時20歳)

私が結城小学校に入った昭和6年に満州事変が、そして昭和12年に盧溝橋事件が起き、日本が戦争に突入していく時代でした。昭和16年12月8日、真珠湾攻撃が起こった日は、朝からラジオで軍艦マーチが流れていましたね。

統制によって、家業の桐製品製造ができなくなったので、中等学校の卒業後、東京・芝浦にあった航空機の部品などを作る軍需工場に入りました。それもあって、私は召集されませんでした。40歳くらいまでの人は召集されたと思います。地元の同級生で、予科練(海軍飛行予科練習生)に志願し、19歳で出征して戦死した人もいました。

戦時中の市内の様子(市教育委員会所有)



結城駅で出征兵士を見送る様子



健田須賀神社で武運長久を祈念する様子



物資不足を補うため献納される鐘

間違っても戦争なんかしない方がいい。

昭和20年5月25日の「東京・山の手大空襲」では、米軍のB29爆撃機が低空でやってきて、バラバラと焼夷弾を落としていきました。職場の近くの店に爆弾が直撃して、そばに人の耳だけが落ちていた様子は、今でも目に焼き付いています。当時住んでいた、世田谷の叔母の家の隣家にも焼夷弾が落ち、火が燃え移らないよう、必死で家に水をかけました。明け方4時ごろ、叔母の夫が泣きながら帰ってきて、「死体がゴロゴロ転がっている中をやっとの思いで帰ってきた」といいました。それはもう本当に悲惨な状況でした。

そのころは、「いつ死んでもいい」という覚悟を植えつけられていました。いつ死んでもいいように、書置きなども残していましたが。「空襲なんかで死ぬんだったら、前線で戦死した方がいい」と思ったこともありましたよね。

空襲で工場が焼けてしまったので、結城に戻りました。8月15日の玉音放送も、実家のラジオで聞きました。戦中～戦後は、とにかく食べ物がありませんでした。大豆を搾ったかすの雑炊なんかを食べていました。だから、どんなものでも粗末にできなかったんですね。

我々は本当に身にしみて、戦争の怖さや虚しさを実感しています。戦争でつらい目に遭うのは、一般国民です。間違っても戦争なんかしない方がいいです。

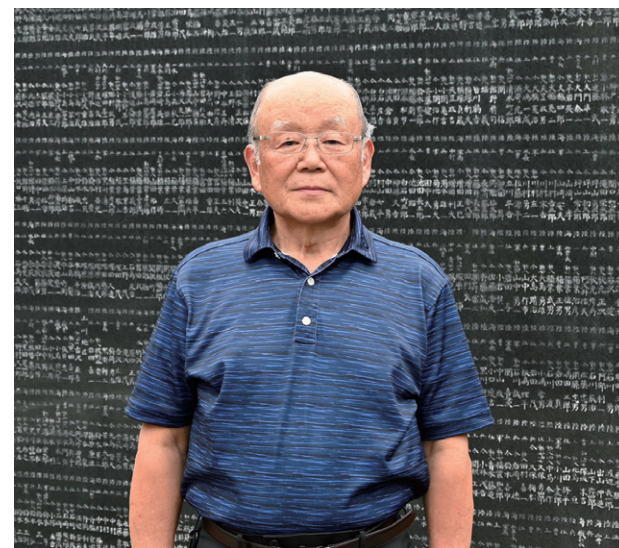
次世代を担う子どもたちに
平和の尊さを学んでほしい。

私の父・柿野谷林吉は、28歳だった昭和18年に臨時召集を受け、宇都宮駐屯地の物資輸送などを担う部隊に入隊しました。その後すぐ、山口県の門司港から南方の戦地に出征しました。

パプアニューギニア・ラバウルで作戦に従事していましたが、マラリアを患い、回復後はフィリピンの司令部に編入されました。しかし、フィリピンはもう激戦地でしたから、最後は隊員みな散り散りになり、そのまま父は戦病死しました。父の部隊の上司の方からの手紙や、国から戦死通知は来ましたが、遺品は何も残っていません。

そのころ私は生後6カ月なので、戦争の記憶や父の記憶はありませんが、唯一、出征時に家族で撮った写真が残っています。聞いた話では、ある日B29爆撃機が結城の上空を東から南西に飛んでいったときに、市内でもサイレンが鳴って、みな竹やぶの中へ逃げ込んだこともあったそうです。

戦後は、家が農家だったこともあり、食べ物に困ることはありませんでしたが、男手がなくなったので、母は本当に苦労したと思います。また、私が2歳のころ、父の部隊の大隊長だった方が訪れてきたこともあ



かきのや しんいち
柿野谷 進一さん
結城市遺族連合会 会長

りました。亡くなった部下の家族のもとへ、全国を訪問されているとのことでした。

戦後76年が経ち、戦争の記憶も風化し忘れられてきています。戦没者の妻も、4～5年前までは市内で数名存命していましたが、今はもうゼロですし、遺族会会員もかなり減ってきています。

その中で、やはり大切なことは「戦争の記憶をどのように引き継ぐか」です。特に、次世代を担う子どもたちに、約300万人が亡くなったこの戦争の悲惨さを知ってもらい、平和の尊さを学んでほしいと思います。

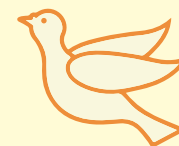
結城市戦没者慰霊殿 (健田須賀神社 敷地内)



戦没者を祭った祭殿や、役職・名前などが刻まれた石碑があります。また、結城・絹川・上山川・山川・江川の各地区にも、戦没者をしのんだ忠魂碑が建てられています。

なお、結城市全体の戦没者は1,213人で、県内で4番目に多い数でした。

原爆死没者慰霊と 平和祈念のために 黙とうを



日本は原子爆弾(原爆)が投下された世界で唯一の国です。このような悲惨な出来事が二度と繰り返されないよう、結城市は昭和62年に「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。

核兵器の廃絶と世界平和を願い、広島市と長崎市への原爆投下時刻と終戦の日に、1分間の黙とうにご協力をお願いします。

●日時 8月6日 午前8時15分から
8月9日 午前11時2分から
8月15日 正午から

●問合先 市秘書課秘書係 ☎ 34-0309